

当日の定期総会及び定例会の内容を以下にまとめました。
総会で話し合われて内容から今後、協議会の活動内容について掲載します。

定期総会の議案内容

- ・第1号議案では、まちづくり協議会の会議等及び、各部会の活動について報告
- ・災害を受けた人たちの心のケアをおこなえるような活動も必要
- ・市民大学のようなことも鹿折地区でやっていきたい
- ・鹿折地区から離れてしまった人同士の交流会も検討していく必要がある

まちづくり協議会への寄付金の贈呈

- ・鹿折復幸マルシェ内の店舗「Ga-Wee」からまちづくり協議会へ
12万2,000円の寄付金が贈呈された。
- ・寄付金は、「Ga-wee」と福井県にある服飾店「アンドファクトリー」がTシャツ販売し、売上の一部を寄付金として集めている。
- ・今度も継続的に、まちづくり協議会へ支援を続けていただけることが決まった。

まちづくりサロンの報告

- ・各大学の提案は**市の基本復興計画に沿った提案**がおこなわれている。
- ・まちづくり協議会で協議してもらえるように、**再度、提案内容を整理**
- ・鹿折まちづくり協議会事務所（鹿折マルシェB棟2階）に各大学から提案された計画案を展示中。**誰でも、気軽に見に来てもらいたい！**

今後の協議会の進め方と協議内容

- ・仮設店舗の移設について話しを進めていきたい
- ・大学からの提案をまちづくり協議会が協議する場を設けながら、**協議会としてのグランドビジョン**を考えていく。
- ・協議会が考える将来像を**UR都市機構のグランドデザインへ提案**を予定
- ・水産加工組合からまちづくり協議会との**連携、情報共有**の要望があり、**今後、話し合いの場をつくっていく**予定

鹿折まちづくり協議会のお知らせ

重要

2013年11月17日（日）にまちづくりサロンを開催いたします。

開催時間：午前10時～12時 場所：鹿折復幸マルシェB棟2階

テーマは前回に引き続き「鹿折地区の将来像・イメージづくり」です。

住民の皆さんの考えや想いを将来のまちに反映していくためにも、奮ってご参加ください

まちづくり通信 Vol.8

2013年
10月20日
開催分

制作・発行 鹿折地区まちづくり協議会

この「通信」は、10月20日に行われた「鹿折まちづくりサロン」と「鹿折まちづくり協議会の定例会」の内容を、鹿折地区に住む住民の方々や被災して、地元を離れて暮らす方々に知っていただくため、発行しています。

「鹿折まちづくりサロンの概要」

2013年10月20日に鹿折まちづくり協議会の事務所にて、まちづくりサロンを開催しました。

当日は、鹿折まちづくり協議会のアドバイザーが所属する大学（工学院大学、近畿大学、宮城大学）の学生から、鹿折地区の将来像・イメージを示した提案が発表されました。それぞれの大学の発表後は、当日参加した、地域住民の方々と発表の内容について意見交換がおこなわれました。参加者からは、将来のまちの安全性・防災面に関する「津波への対策」「防潮堤の計画」について意見が多く上がり、今後のまちづくりの課題として、共有されました。また、「人が集まる場所」「老若男女、住みやすい・住みたくなるまち」にしていきたいといった、前向きな意見もあり、まちの将来像が少しずつ、見え始めた会になりました。

- 日時 2013年10月20日（日）
10時00分～12時00分
- 参加者 29名
地域住民 15名
協議会アドバイザー 3名
研究生・学生 13名
オブザーバー 8名
- 場所 鹿折まちづくり協議会事務所



- 日時 2013年10月20日（日）
13時30分～15時00分
- 参加者 35名
鹿折まちづくり協議会役員 15名
市議会議員 3名
アドバイザー 3名
オブザーバー 12名
協議会事務局員 1名
- 場所 鹿折公民館
- 主催 鹿折まちづくり協議会



「鹿折地区まちづくり協議会 定期総会」

2013年10月20日に鹿折まちづくり協議会定期総会が鹿折公民館で開催されました。

はじめに会長から開会の挨拶がおこなわれました。定期総会の前に地元の服飾店店主からまちづくり協議会へ寄付金が贈呈されました。定期総会では、「24年度事業」「24年度収支決算」が報告され、その後、「25年度事業計画（案）」「25年度収支予算（案）」について議案が上がりました。

最後に副会長から、閉会の言葉をいただき、当日の会を終りました。

定期総会に引き続き、月一の定例会も行い、当日の午前におこなった、まちづくりサロンの報告と学生提案を協議会でどのように今後、議論していくか話し合われました。

各大学（工学院・近畿・宮城大学）から発表された鹿折地区の将来像・イメージの提案内容と当日、参加していただいた地域住民からの意見・提案について、まとめて掲載しています。

① 工学院大学からの提案内容

「多世代の人が交流できる豊かな暮らし」

タウンセンター（地域の中心・核のあり方）

・拠点づくり・居場所づくり、安全、コミュニティの確保が重要

住宅地計画

・数軒あつまってできる空間づくり。ガイドラインや景観づくりのルールをつくる。

鹿折川は大切な環境資源

まちづくりのルール

・地区計画とまちづくりガイドラインを取り入れ、良好なまち並みを形成する。

防災まちづくり

・丈夫な建物の建設、津波からの多重防御、避難訓練など、地域で取り組むべき、防災計画が今後必要である。



② 近畿大学からの提案内容

「ふれあいネットワークの形成 自然に溶け込むコンパクトシティ」

①環境と景観に配慮した住宅地、統一したまち並み空間と路地裏空間へ（住宅に前庭）

②防風林としての機能や並木散策、水路整備したグリーンベルト

③商店街通りの石畳化、歩いて買い物できる空間づくり、休憩・交流スペース整備

④川遊び、釣り大会など大人から子どもまで楽しめる場所として鹿折川と堤防の整備

⑤防潮堤と海岸エリアの計画として、ウッドデッキ整備、休憩スペース、外灯デザインの統一

⑥公営住宅の住民を中心とした交流空間（中庭）を提案。災害時に備えた避難場所の確保

⑦水産加工工場地帯の歩道空間に加工場の商品を直売できる空間・市場を整備

⑧震災遺構の保存・伝承提案「原寸大の共徳丸をアクリルで再現」



③ 宮城大学からの提案内容

「住み続けるまち、みんなで作る人のみち」

・鹿折地区は、「産業」と「暮らし」の混在が魅力であり特徴なまち

・周辺地域も含めた、みんながしあわせに暮らせるまち

・各エリアを繋ぐ1本の道。道を介してつながっていく計画を提案

・被災した鹿折地区の北から南へと住宅地→公共ゾーン→商業ゾーン（地域密着）→災害公営住宅→商業ゾーン（広域）→産業集積ゾーンを繋ぐ人が行き交う道を計画

・日常の風景、地域力育成、来訪者との交流、生活者への配慮、情報発信力のある地域

・住民のみなさんで将来像について意見を出し合って、まちを考え、つくるのが大切。



当日、参加者の意見・提案のまとめ

地域の防災・減災計画に対する意見

- ・防潮堤、防波堤を含めた提案も欲しい。
- ・災害に強いまちを目指したい。
- ・鹿折は津波と火災で大きな被害があったので、津波対策に配慮した防災・減災計画も考えていきたい。
- ・最も計画・検討すべきことは「安全」。安全なまちがあってこそそのまちづくりが考えられるべき。

まちづくりの体制・進め方

- ・まちづくりの組織をどうしたらよいのか？
- ・意見を述べ合う場が必要だと思う。
- ・住む人、住みたい人が意見を出し合って進めたい。
- ・人が集まる、行ってみたくなるまちをスローガンに。
- ・今のまちづくりに必要なのは、全体の夢を膨らませて育てていくことだと感じた。

地域の魅力づくりと発見

- ・鹿折は気仙沼の中でどんなところと位置づけられるか？
- ・コンクリートの防潮堤だと味気ない。土木構造物を上手く活かしたまちづくりを考えたい。
- ・アートを活かしたまちづくりなど、楽しいまちになる計画も考えたい。
- ・まちのランドマークを計画整備することで、鹿折のまちの魅力をつくる。
- ・上鹿折にある金山も活用したまちづくり・物語を考えてみてはどうか？

公共施設の計画に対する意見・課題

- ・ポンプ施設を移設できないなら、今の場所をどのように活用するかが課題
- ・今後、鹿折駅は復旧するのか心配。鹿折にとって大事な交通手段。